

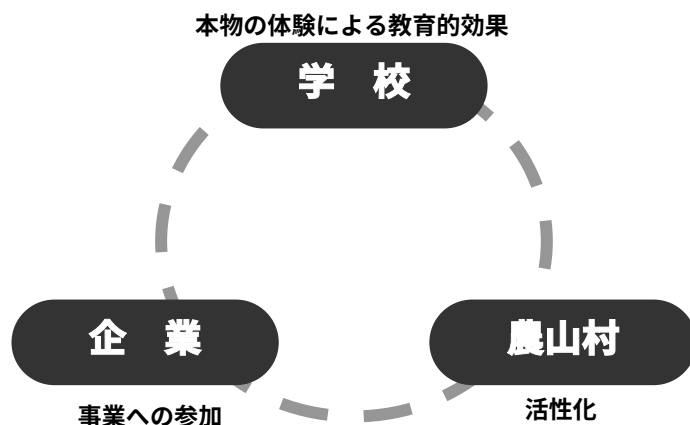
第1章 本事業の目的と実施の経緯

平成 17 年 4 月に 7 市町村が合併して誕生した「新」豊田市では、広域な市内に都市部と農山村部を併せ持つこととなり、両地域の交流促進等による「都市と農山村の共生」の実現が重要課題となっている。

本年度は、子どもたちの農山村体験をメインとした都市部と農山村部の交流事業をきっかけに、地域住民や企業、農山村が相互に連携し、互いにメリットを享受することが可能な交流促進モデルを構築することを目的に、以下の 3 つの事業に取り組むこととなった。

- ①学校と連携した農山村体験促進…体験モデル事業の実施（セカンドスクール）
- ②家族単位での農山村体験促進…家族がそろって農山村体験を行うための環境整備
- ③企業と連携した農山村体験促進…人材、資源の有効活用

このうち、①「セカンドスクールモデル校事業」は豊田市事業として実施済みであり、本調査では、②家族単位での農山村体験促進と、③企業と連携した農山村体験促進について、モデルツアー等の社会実験を通じた検討を行った。これらにより、広域合併自治体内域間の共生・対流モデルの確立を図ることを目的とした。



第2章 実施地区の概要

1. 豊田市の概要

豊田市は、愛知県の中部に位置し、全国第1位の製造品出荷額を誇るなど「クルマのまち」として知られている。平成17年4月に藤岡町・小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町と合併を行い、人口約40万人、面積約918平方キロメートルの「新」豊田市として新たなスタートを切った。

今回の事業を行った地域（足助地区、稲武地区、小原地区、旭地区、下山地区）は、いずれも旧豊田市に隣接しながらも山間部の多い農山村である。地域の主産業である農林業の構造変化や高齢化が進行しており、地区の人口はそれぞれ3千人～9千人程度となっている。

各地区とも、自然資源などを活かしたレクリエーション施設等による観光交流にも取り組んでいる。

地区名	人口（平成18年6月）	地域の特徴、名所等
足助地区	9,457人	香嵐溪、三州足助屋敷
小原地区	4,432人	四季桜、和紙のふるさと
旭地区	3,474人	矢作ダム、旭高原
下山地区	5,520人	香恋の館、三河湖
稲武地区	3,092人	どんぐりの里



2. セカンドスクールモデル校事業の取組

本調査事業に先立ち、同地区に於いて、「学校と連携した農山村体験促進」に向けた子どもたちの体験モデル事業を実施した。

(1)セカンドスクールの定義

通常の学校活動では得ることが難しい「ほんものの体験」を、「総合的な学習」の授業の一環として、農山村に滞在しながら実施するもの。

校内での通常授業（＝ファーストスクール）に対し、農山村での授業（＝セカンドスクール）のことをいう。

(2)事業概要

ア 実施内容

- ・ 期間：平成 18 年 8 月 24 日（木）～8 月 27 日（日）
- ・ 内容：豊田市立大林小学校をモデル校とし、5 年生 125 人を対象に、夏休み期間中に「総合学習の時間」を活用し、農林業体験、農家ホームステイ、地域の行事への参加、等を実施。

イ 実施目的

- ・ 子どもたちが、農作業や自然の中で「ほんものの体験」をすることで、共同作業や世代を超えた交流を通じて、生きる力や地域社会についての理解を深める。
- ・ 農山村部が、子どもたちを受け入れることにより、元気を取り戻すとともに、地域間の交流や自分たちの地域の再発見の契機となるなど、地域の活性化を図る。

ウ 事業の特徴

- ・ 「総合的な学習の時間」を活用したセカンドスクールの実施
→年度当初より「総合的な学習」として、各地区の自然や歴史、特色を研究しており、その発展として「現地学習」としてセカンドスクールを実施した。
- ・ 3 泊のうち、1 泊目をこれまでの野外学習と同様に集団研修を実施し、2 泊目・3 泊目に班ごとに各地区に分散し、農山村体験を実施した。
- ・ 参加した全児童（125 人）が農家ホームステイを体験
→5 地区 35 戸の農家が協力し、1 農家あたり児童 3～5 人を受入した。
- ・ 昼間はホームステイ先農家や周辺の農林業施設、ほ場等において、農林業作業や現地の特産品づくり等の体験を実施した。



エ 主な体験内容

地区名	体験児童数	受入農家数	体験内容
旭地区	20 人	5 戸	・ 地元（太田地区）歓迎会 ・ 農家ホームステイ（1 泊目） ・ 集落の空き家を利用したの集団宿泊（2 泊目）等
足助地区	34 人	11 戸	・ 基本的に農家 2 泊 ・ 農家での農業体験 ・ 炭焼き、畑作業等 ・ 五平もち作り等
稲武地区	33 人	10 戸	・ 農家 1 泊、旅館 1 泊 ・ 農家での農業体験 ・ 間伐体験 ・ 面ノ木高原ハイキング等
小原地区	11 人	2 戸	・ 農家 2 泊 ・ 近隣農家でのきのこ栽培体験 ・ 和紙すき体験等
下山地区	27 人	7 戸	・ 農家 1 泊、旅館 1 泊 ・ 農家での農業体験 ・ 炭焼き体験 ・ 山遊里でのソーセージ作り等

オ 評価と課題

- ・ 参加児童にとっては印象深い充実した体験となった。日常の教室を離れた総合的な学習としての効果も期待されている。保護者にとっても農山村部への訪問交流の機会になるなど、参加者側からの評価は高い。
- ・ 受入農家等からは、児童の触れあいにより活力を得る、自分達の地域の魅力を再発見する契機になる、等の地域活性化効果についての評価がなされた。
- ・ 一方、実施時期の設定、相互の事前の情報伝達、受入家庭の確保や諸準備などの点で課題が出された。

第3章 市内企業等の取組状況および交流ニーズ

1. 企業アンケート調査結果

(1) 調査概要

調査日時：2006年12月25日（月）～2007年1月15日（月）

調査方法：郵送による依頼及び回収

調査対象：豊田市内に事業所を有する企業230社

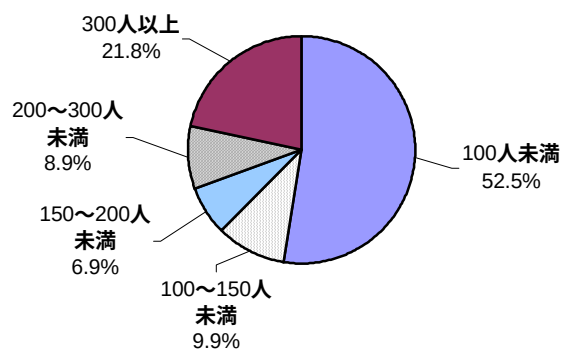
有効回答数：101件

(2) 結果概要

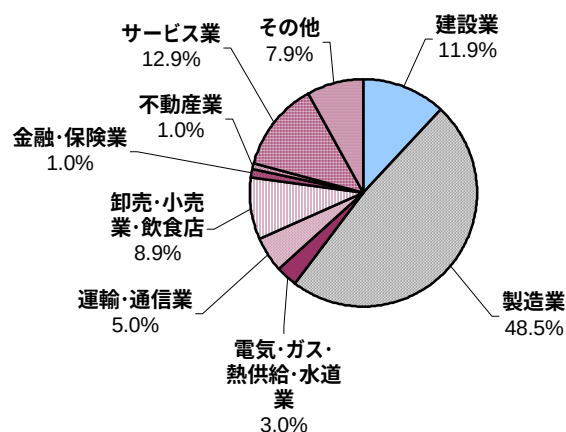
ア. 回答事業所について

- ・従業員数は、「100人未満」が52.5%を占める一方、「300人以上」が21.8%となっている。
- ・業種は、「製造業」が48.5%と最も多く、次いで「サービス業」12.9%、「建設業」11.9%、などとなっている。

(N=101)		
100人未満	53	(52.5%)
100～150人未満	10	(9.9%)
150～200人未満	7	(6.9%)
200～300人未満	9	(8.9%)
300人以上	22	(21.8%)
計	101	(100.0%)



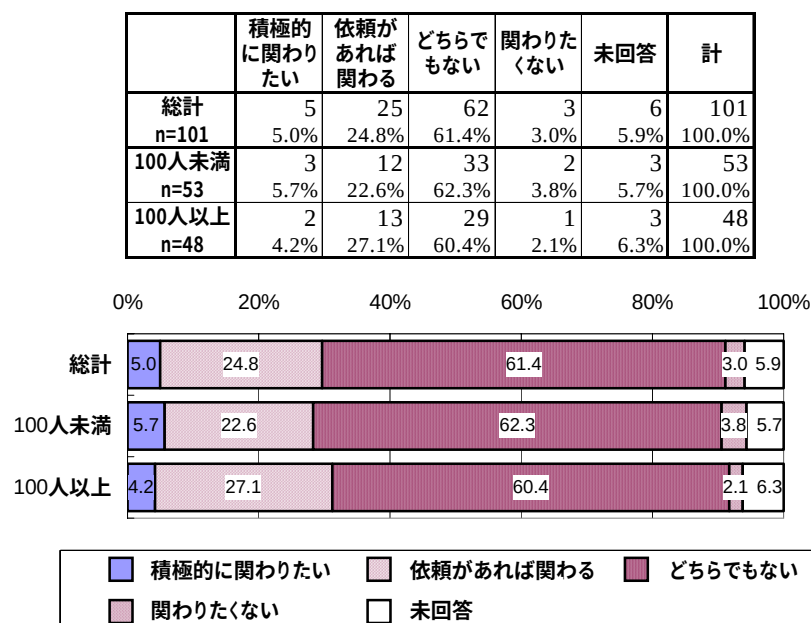
(N=101)		
農林漁業	0	(0.0%)
鉱業	0	(0.0%)
建設業	12	(11.9%)
製造業	49	(48.5%)
電気・ガス・熱供給・水道業	3	(3.0%)
運輸・通信業	5	(5.0%)
卸売・小売業・飲食店	9	(8.9%)
金融・保険業	1	(1.0%)
不動産業	1	(1.0%)
サービス業	13	(12.9%)
その他	8	(7.9%)
計	101	(100.0%)



イ. 事業所での農山村交流促進活動に関する取組

(ア)「農山村との交流活動」に関わることについて

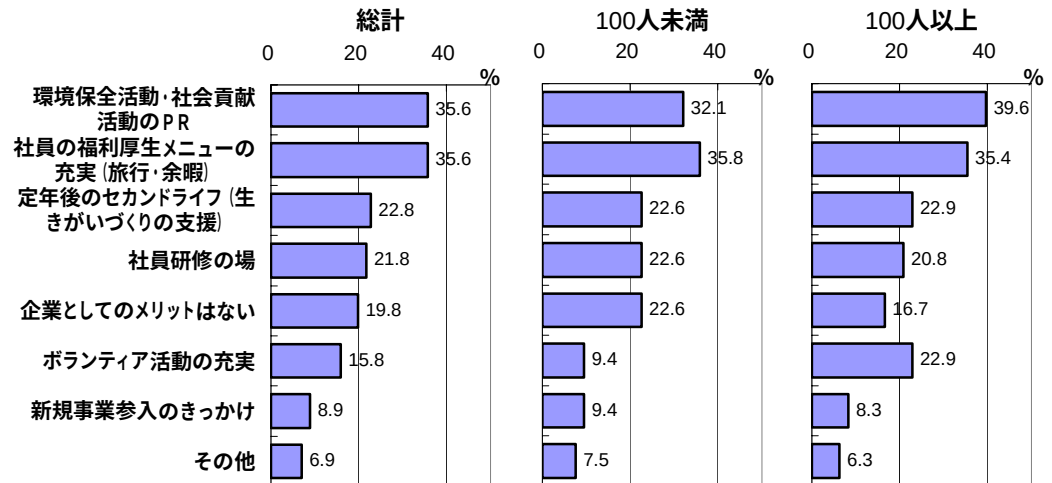
- ・「どちらでもない」が 61.4%と最も多く、次いで「依頼があれば関わる」が 24.8%であり、「積極的に関わりたい」は 5.0%と少ない。
- ・従業員規模の多少によっても同様の傾向である。



(イ)「農山村との交流活動」に関わる場合に考えられること（複数回答）

- ・「環境保全活動・社会貢献活動のPR」と「社員の福利厚生メニューの充実（旅行・余暇）」がそれぞれ 35.6%と最も多く、次いで「定年後のセカンドライフ（生きがいのづくりの支援）」などが多い。
- ・従業員 100 人未満の企業では、「社員の福利厚生メニューの充実（旅行・余暇）」が「環境保全活動・社会貢献活動のPR」を上回って最も多く、「企業としてのメリットはない」との回答も 22.6%あった。一方、従業員 100 人以上の企業では「環境保全活動・社会貢献活動のPR」が最も多く、「ボランティア活動の充実」も 22.9%が回答しているなど、社会貢献に関する回答が比較的多い。

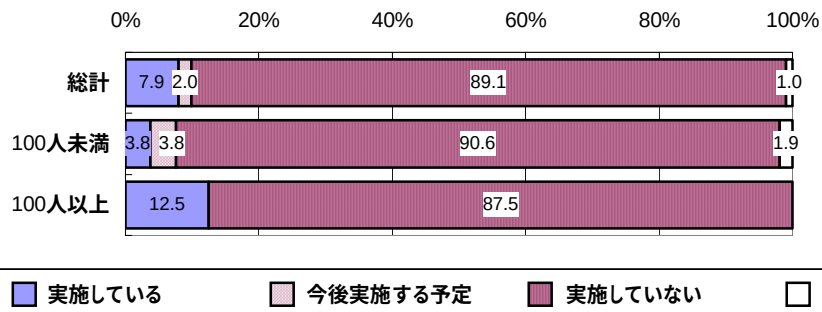
	環境保 全活動・ 社会貢 献活動 のPR	社員の 福利厚 生メ ニューの 充実(旅 行・余 暇)	定年後 のセカ ンドラ イフ (生きが いの支 援)	社員研 修の場	企業とし てのメ リットは ない	ボラン ティア活 動の充 実	新規事 業参入 のきっ かけ	その他	計
総計 n=101	36 35.6%	36 35.6%	23 22.8%	22 21.8%	20 19.8%	16 15.8%	9 8.9%	7 6.9%	169
100人未満 n=53	17 32.1%	19 35.8%	12 22.6%	12 22.6%	12 22.6%	5 9.4%	5 9.4%	4 7.5%	86
100人以上 n=48	19 39.6%	17 35.4%	11 22.9%	10 20.8%	8 16.7%	11 22.9%	4 8.3%	3 6.3%	83



(ウ) 農山村地域における企業としての活動について

・「実施している」は8社にとどまり、「今後実施する予定」も2社となっている。

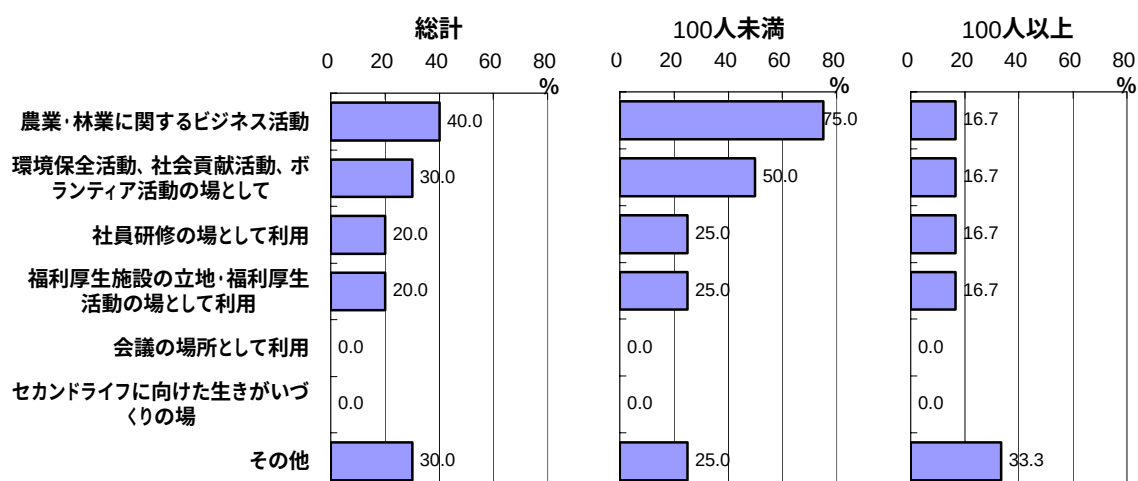
	実施している	今後実施する予定	実施していない	未回答	計
総計 n=101	8 7.9%	2 2.0%	90 89.1%	1 1.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	2 3.8%	2 3.8%	48 90.6%	1 1.9%	53 100.0%
100人以上 n=48	6 12.5%	0 0.0%	42 87.5%	0 0.0%	48 100.0%



(エ) 活動の内容 (複数回答)

・活動の内容は、「農業・林業に関するビジネス活動」が4社、「環境保全活動、社会貢献活動、ボランティア活動の場として」が3社、などとなっている。

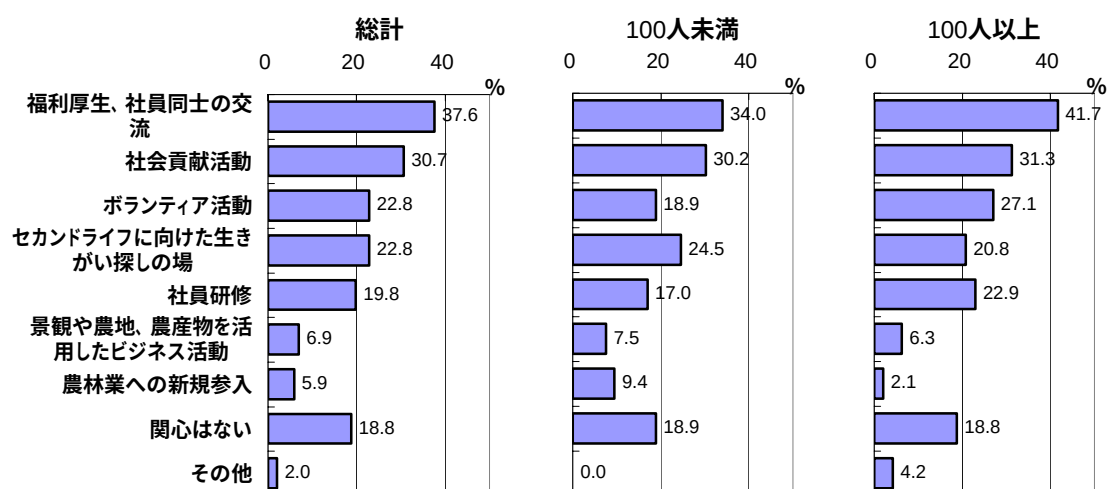
	農業・林業に関するビジネス活動	環境保全活動、社会貢献活動、ボランティア活動の場として	社員研修の場として利用	福利厚生施設の立地・福利厚生活動の場として利用	会議の場所として利用	セカンドライフに向けた生きがいづくりの場	その他	計
総計 n=10	4 40.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 30.0%	14
100人未満 n=4	3 75.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	8
100人以上 n=6	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	6



(オ) 農山村地域において今後関心のある活動（複数回答）

- ・「福利厚生、社員同士の交流」が 37.6%と最も多く、次いで「社会貢献活動」30.7%、「ボランティア活動」「セカンドライフに向けた生きがい探しの場」各 22.8%、などとなっている。
- ・従業員規模別でもほぼ同様の順番だが、100 人以上の企業では「社員研修」が 22.9%と比較的多い。

	福利厚生、社員同士の交流	社会貢献活動	ボランティア活動	セカンドライフに向けた生きがい探しの場	社員研修	景観や農地、農産物を活用したビジネス活動	農林業への新規参入	関心はない	その他	計
総計 n=101	38 37.6%	31 30.7%	23 22.8%	23 22.8%	20 19.8%	7 6.9%	6 5.9%	19 18.8%	2 2.0%	169
100人未満 n=53	18 34.0%	16 30.2%	10 18.9%	13 24.5%	9 17.0%	4 7.5%	5 9.4%	10 18.9%	0 0.0%	85
100人以上 n=48	20 41.7%	15 31.3%	13 27.1%	10 20.8%	11 22.9%	3 6.3%	1 2.1%	9 18.8%	2 4.2%	84

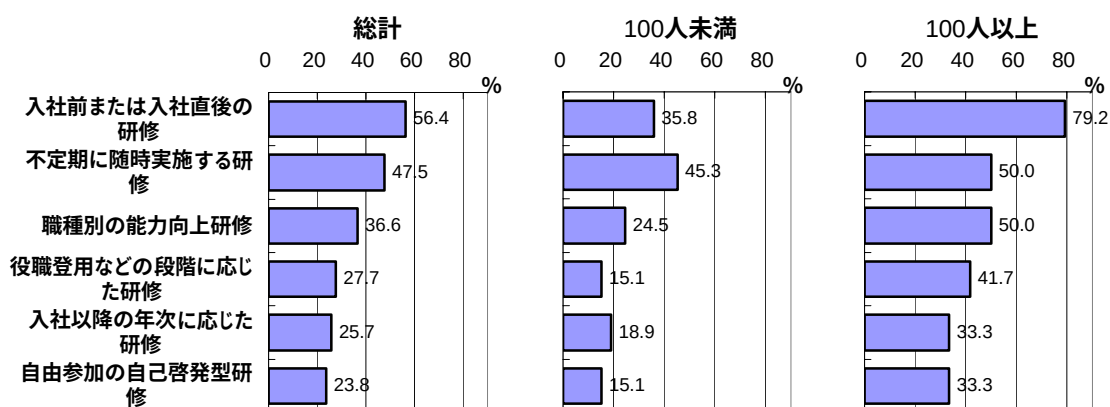


ウ. 社員研修について

(ア) 実施している社員研修（複数回答）

- ・「入社前または入社直後の研修」は、100 人以上の企業の約 8 割で実施されている。
- ・100 人未満の企業では、「不定期に随時実施する研修」が 45.3%で最も多い。

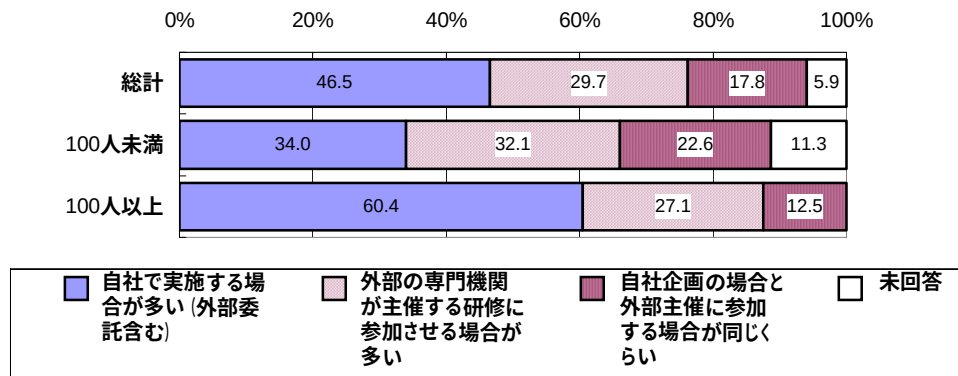
	入社前 または 入社直 後の研 修	不定期 に随時 実施す る研修	職種別 の能力 向上研 修	役職登 用など の段階 に応じた 研修	入社以 降の年 次に応じ た研修	自由参 加の自 己啓発 型研修	計
総計 n=101	57 56.4%	48 47.5%	37 36.6%	28 27.7%	26 25.7%	24 23.8%	220
100人未満 n=53	19 35.8%	24 45.3%	13 24.5%	8 15.1%	10 18.9%	8 15.1%	82
100人以上 n=48	38 79.2%	24 50.0%	24 50.0%	20 41.7%	16 33.3%	16 33.3%	138



(イ) 実施している社員研修の形態

- ・「自社で実施する場合が多い」が 46.5%と最も多い。
- ・100 人以上の企業では 60.4%が自社で実施している。

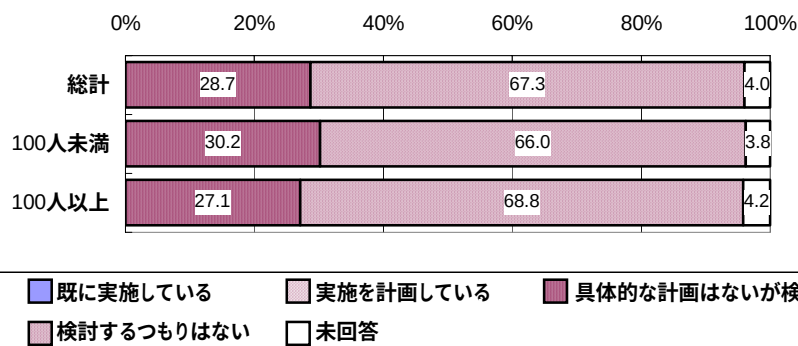
	自社で 実施す る場合 が多い (外部委 託含む)	外部の 専門機 関が主 催する 研修に 参加さ せる場 合が多 い	自社企 画の場 合と外 部主催 に参加 する場 合が同 じくらい	未回答	計
総計 n=101	47 46.5%	30 29.7%	18 17.8%	6 5.9%	101 100.0%
100人未満 n=53	18 34.0%	17 32.1%	12 22.6%	6 11.3%	53 100.0%
100人以上 n=48	29 60.4%	13 27.1%	6 12.5%	0 0.0%	48 100.0%



(ウ) 社員研修として農山村地域での農林業活動を実施する予定

- ・「既に実施している」「実施を計画している」という回答が無い一方、「検討するつもりはない」が67.3%となっている。

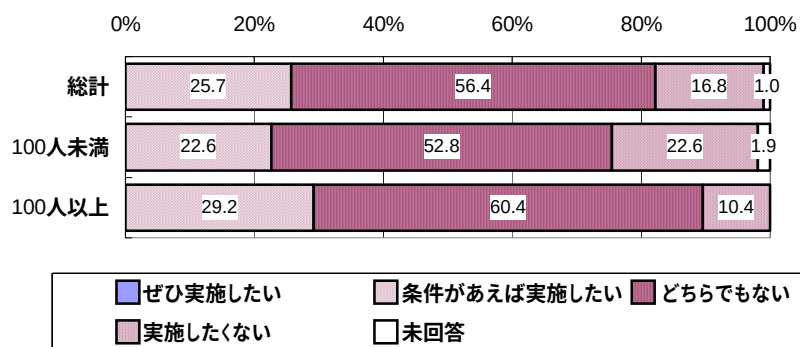
	既に実 施してい る	実施を 計画して いる	具体的 な計画 はない が検討し たい	検討す るつもり はない	未回答	計
総計 n=101	0 0.0%	0 0.0%	29 28.7%	68 67.3%	4 4.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	0 0.0%	0 0.0%	16 30.2%	35 66.0%	2 3.8%	53 100.0%
100人以上 n=48	0 0.0%	0 0.0%	13 27.1%	33 68.8%	2 4.2%	48 100.0%



(エ) 今後の農山村地域における社員研修実施について

- ・「どちらでもない」が56.4%と最も多い。「条件があれば実施したい」が25.7%の一方で、「実施したくない」も16.8%に上っている。

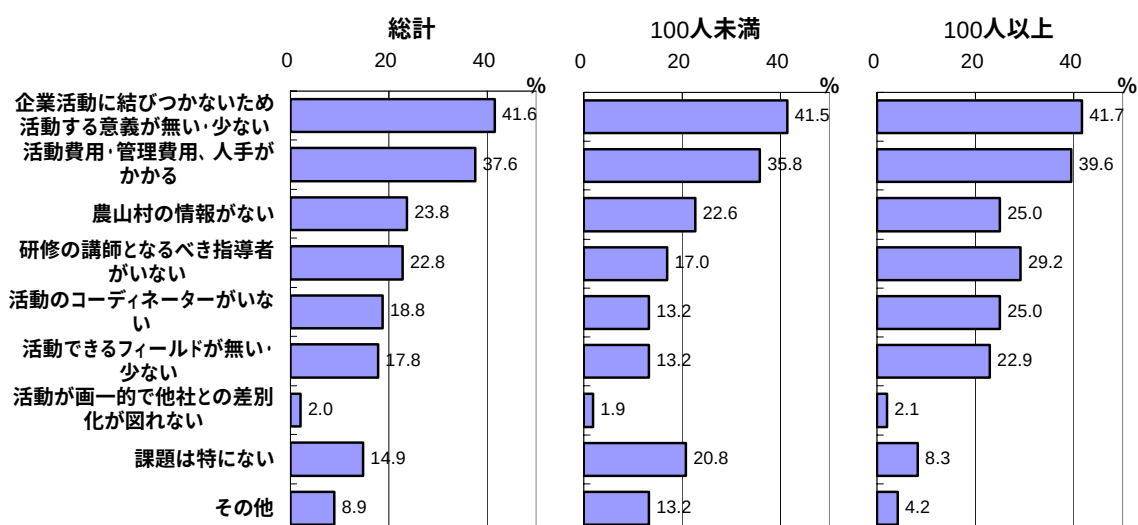
	ぜひ実 施したい	条件が あれば 実施し たい	どちら でも ない	実施し たく ない	未回答	計
総計 n=101	0 0.0%	26 25.7%	57 56.4%	17 16.8%	1 1.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	0 0.0%	12 22.6%	28 52.8%	12 22.6%	1 1.9%	53 100.0%
100人以上 n=48	0 0.0%	14 29.2%	29 60.4%	5 10.4%	0 0.0%	48 100.0%



(オ) 農山村地域において社員研修を実施する場合の課題（複数回答）

- ・「企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない」が 41.6%と最も多く、次いで「活動費用・管理費用、人手がかかる」が 37.6%となっている。
- ・100 人以上の企業では、上記の他、「研修の講師となるべき指導者がいない」29.2%、「農山村の情報がない」「活動のコーディネーターがいない」各 25.0% など、実施する仕組みが整っていない点を指摘する回答も見られる。

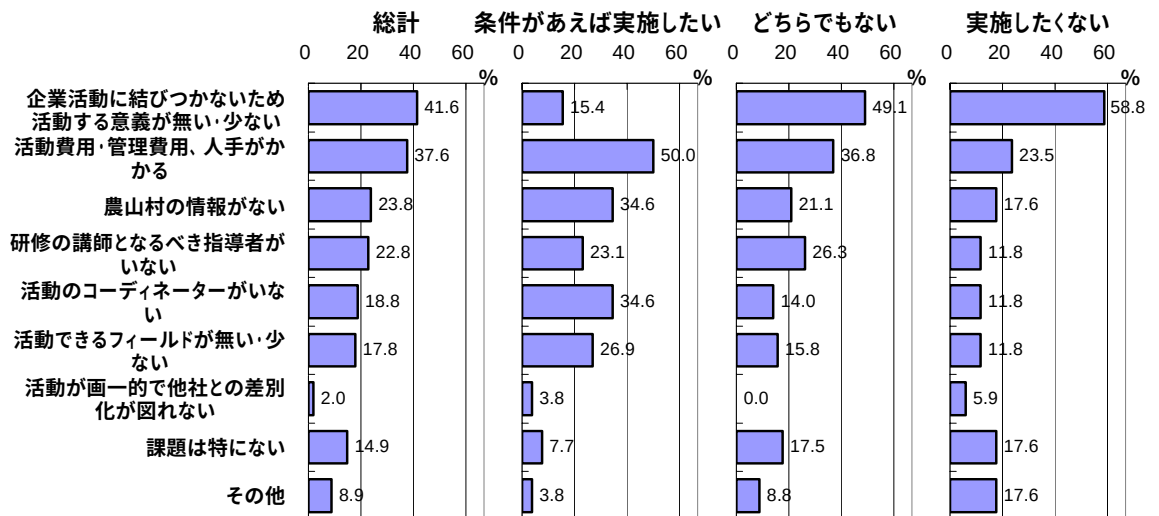
	企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない	活動費用・管理費用、人手がかかる	農山村の情報がない	研修の講師となるべき指導者がいない	活動のコーディネーターがいない	活動できるフィールドが無い・少ない	活動が画一的で他社との差別化が図れない	課題は特にない	その他	計
総計 n=101	42 41.6%	38 37.6%	24 23.8%	23 22.8%	19 18.8%	18 17.8%	2 2.0%	15 14.9%	9 8.9%	190
100人未満 n=53	22 41.5%	19 35.8%	12 22.6%	9 17.0%	7 13.2%	7 13.2%	1 1.9%	11 20.8%	7 13.2%	95
100人以上 n=48	20 41.7%	19 39.6%	12 25.0%	14 29.2%	12 25.0%	11 22.9%	1 2.1%	4 8.3%	2 4.2%	95



(「実施意向」(エ)とのクロス集計)

- ・農山村地域において社員研修を実施する場合の課題について、前問(エ)の実施意向についての回答別に集計した結果を以下に示す。
- ・実施について「どちらでもない」「実施したくない」とした企業では、「企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない」という回答が多いが、「条件があれば実施したい」とした企業では、「活動費用・管理費用、人手がかかる」を一番の課題としている。

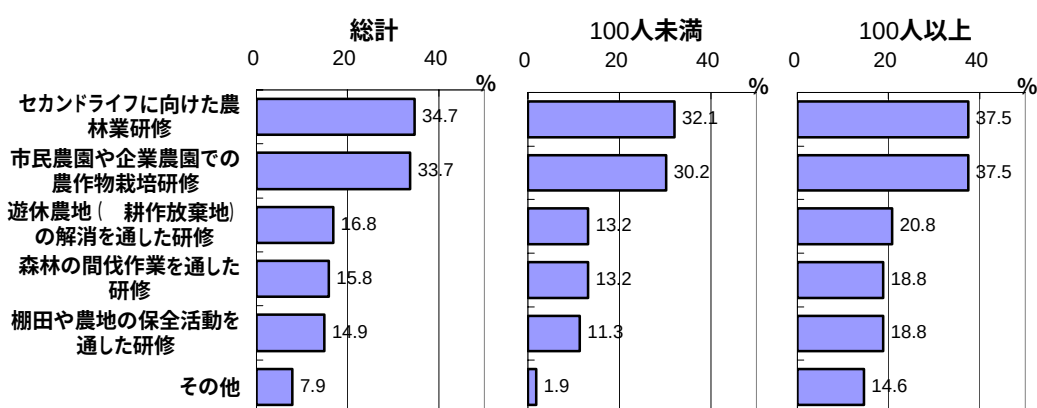
	企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない	活動費用・管理費用、人手がかかる	農山村の情報がない	研修の講師となるべき指導者がいない	活動のコーディネーターがいない	活動できるフィールドが無い・少ない	活動が画一的で他社との差別化が図れない	課題は特にな	その他	計
総計 n=101	42 41.6%	38 37.6%	24 23.8%	23 22.8%	19 18.8%	18 17.8%	2 2.0%	15 14.9%	9 8.9%	190
条件があれば実施したい n=26	4 15.4%	13 50.0%	9 34.6%	6 23.1%	9 34.6%	7 26.9%	1 3.8%	2 7.7%	1 3.8%	52
どちらでもない n=57	28 49.1%	21 36.8%	12 21.1%	15 26.3%	8 14.0%	9 15.8%	0 0.0%	10 17.5%	5 8.8%	108
実施したくない n=17	10 58.8%	4 23.5%	3 17.6%	2 11.8%	2 11.8%	2 11.8%	1 5.9%	3 17.6%	3 17.6%	30



(カ) 農山村地域において社員研修を実施する場合に希望する研修（複数回答）

- ・「セカンドライフに向けた農林業研修」が 34.7%と最も多く、次いで「市民農園や企業農園での農作物栽培研修」33.7%となっている。

	セカンドライフに向けた農林業研修	市民農園や企業農園での農作物栽培研修	遊休農地（耕作放棄地）の解消を通じた研修	森林の間伐作業を通じた研修	棚田や農地の保全活動を通じた研修	その他	計
総計 n=101	35 34.7%	34 33.7%	17 16.8%	16 15.8%	15 14.9%	8 7.9%	125
100人未満 n=53	17 32.1%	16 30.2%	7 13.2%	7 13.2%	6 11.3%	1 1.9%	54
100人以上 n=48	18 37.5%	18 37.5%	10 20.8%	9 18.8%	9 18.8%	7 14.6%	71



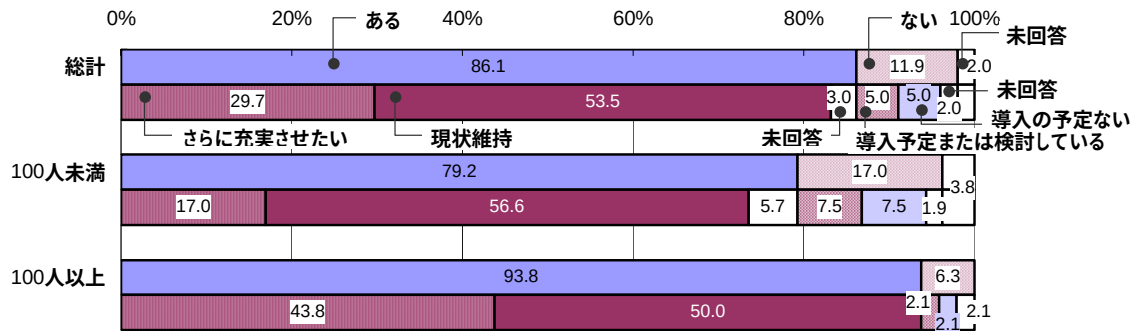
エ. 社員の福利厚生メニューについて

(ア) 各福利厚生制度の有無と今後の意向

① 健康管理

- ・ 86.1%と大多数の企業が「ある」と回答している。
- ・ 全体の 29.7%が「さらに充実させたい」と回答し、また、「ない」と回答した企業でも半数近くが「導入予定または検討している」と答えているなど、この分野への関心が高いことが窺われる。

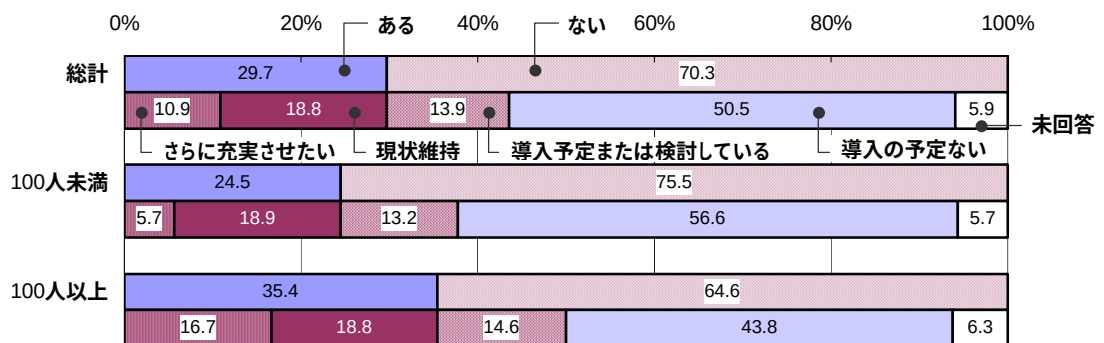
	ある					ない					未回答	計
		さらに充実させたい	廃止または削減したい	現状維持	未回答		導入予定または検討している	導入の予定はない	未回答			
総計 n=101	87 86.1%	30 29.7%	0 0.0%	54 53.5%	3 3.0%	12 11.9%	5 5.0%	5 5.0%	2 2.0%	2 2.0%		101 100.0%
100人未満 n=53	42 79.2%	9 17.0%	0 0.0%	30 56.6%	3 5.7%	9 17.0%	4 7.5%	4 7.5%	1 1.9%	2 3.8%		53 100.0%
100人以上 n=48	45 93.8%	21 43.8%	0 0.0%	24 50.0%	0 0.0%	3 6.3%	1 2.1%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%		48 100.0%



② 退職準備やセカンドライフの支援

- ・「ある」という回答は 29.7%に留まっている。
- ・全体の 10.9%の企業が「さらに充実させたい」と回答している一方で、「導入の予定はない」と回答した企業は 50.5%に上っており、企業により取組に大きな差が見られる。
- ・従業員規模が大きい企業で、「さらに充実させたい」や「導入予定または検討している」との回答が比較的多い。

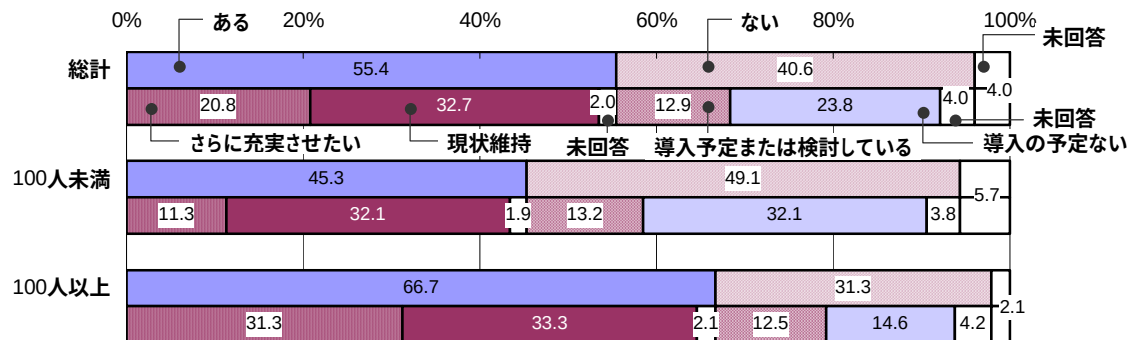
	ある					ない				未回答	計
	さらに充実させたい	廃止または削減したい	現状維持	未回答		導入予定または検討している	導入の予定はない	未回答			
総計 n=101	30 29.7%	11 10.9%	0 0.0%	19 18.8%	0 0.0%	71 70.3%	14 13.9%	51 50.5%	6 5.9%	0 0.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	13 24.5%	3 5.7%	0 0.0%	10 18.9%	0 0.0%	40 75.5%	7 13.2%	30 56.6%	3 5.7%	0 0.0%	53 100.0%
100人以上 n=48	17 35.4%	8 16.7%	0 0.0%	9 18.8%	0 0.0%	31 64.6%	7 14.6%	21 43.8%	3 6.3%	0 0.0%	48 100.0%



③ 自己啓発の支援

- ・「ある」という回答が 55.4%と半数以上になっている。
- ・全体の 20.8%が「さらに充実させたい」と回答し、「導入予定または検討している」と回答している企業も 12.9%に上るなど、「退職準備やセカンドライフの支援」に比べて導入に前向きな意見が多い。
- ・従業員規模が大きい企業で、「さらに充実させたい」との回答が比較的多い。

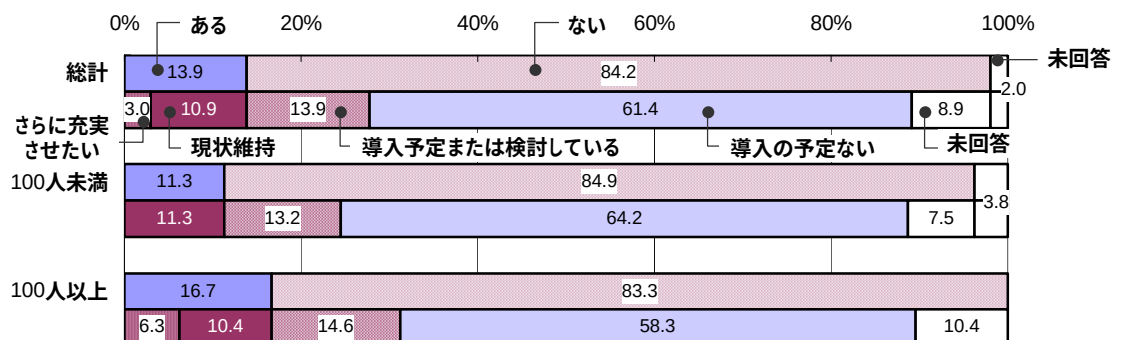
	ある					ない				未回答	計
		さらに充実させたい	廃止または削減したい	現状維持	未回答		導入予定または検討している	導入の予定はない	未回答		
総計 n=101	56 55.4%	21 20.8%	0 0.0%	33 32.7%	2 2.0%	41 40.6%	13 12.9%	24 23.8%	4 4.0%	4 4.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	24 45.3%	6 11.3%	0 0.0%	17 32.1%	1 1.9%	26 49.1%	7 13.2%	17 32.1%	2 3.8%	3 5.7%	53 100.0%
100人以上 n=48	32 66.7%	15 31.3%	0 0.0%	16 33.3%	1 2.1%	15 31.3%	6 12.5%	7 14.6%	2 4.2%	1 2.1%	48 100.0%



④ カフェテリアプラン

- ・「ある」という回答は13.9%と少ない。また、「導入予定または検討している」も13.9%となっている。
- ・企業規模により、導入状況等に大きな差は見られない。

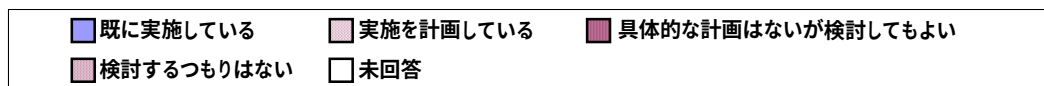
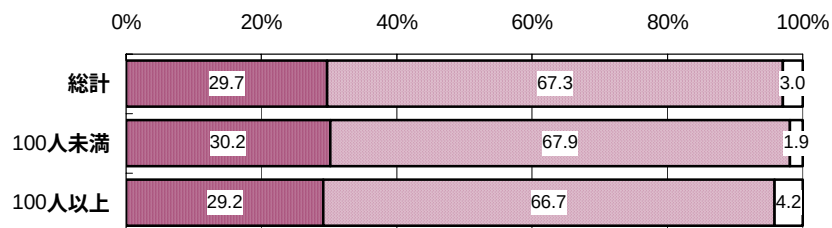
	ある					ない				未回答	計
		さらに充実させたい	廃止または削減したい	現状維持	未回答		導入予定または検討している	導入の予定はない	未回答		
総計 n=101	14 13.9%	3 3.0%	0 0.0%	11 10.9%	0 0.0%	85 84.2%	14 13.9%	62 61.4%	9 8.9%	2 2.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	6 11.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 11.3%	0 0.0%	45 84.9%	7 13.2%	34 64.2%	4 7.5%	2 3.8%	53 100.0%
100人以上 n=48	8 16.7%	3 6.3%	0 0.0%	5 10.4%	0 0.0%	40 83.3%	7 14.6%	28 58.3%	5 10.4%	0 0.0%	48 100.0%



(イ) 福利厚生メニューとして農山村地域での農林業活動を実施する予定

- ・「既に実施している」「実施を計画している」という回答が無い一方、「検討するつもりはない」が67.3%となっている。

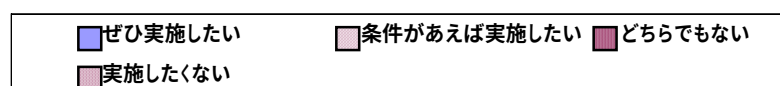
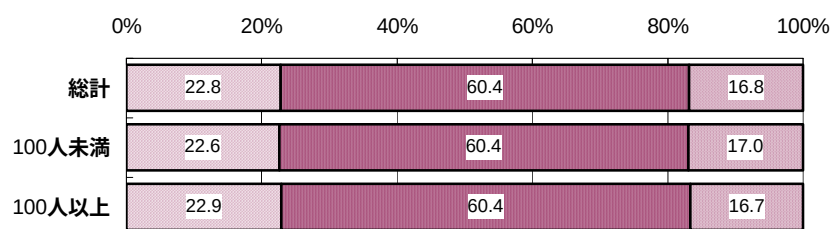
	既に実施している	実施を計画している	具体的な計画はないが検討してもよい	検討するつもりはない	未回答	計
総計 n=101	0 0.0%	0 0.0%	30 29.7%	68 67.3%	3 3.0%	101 100.0%
100人未満 n=53	0 0.0%	0 0.0%	16 30.2%	36 67.9%	1 1.9%	53 100.0%
100人以上 n=48	0 0.0%	0 0.0%	14 29.2%	32 66.7%	2 4.2%	48 100.0%



(ウ) 今後の農山村地域におけるの福利厚生メニュー実施について

- ・「どちらでもない」が60.4%と最も多い。「条件があれば実施したい」が22.8%の一方で、「実施したくない」も16.8%に上っている。

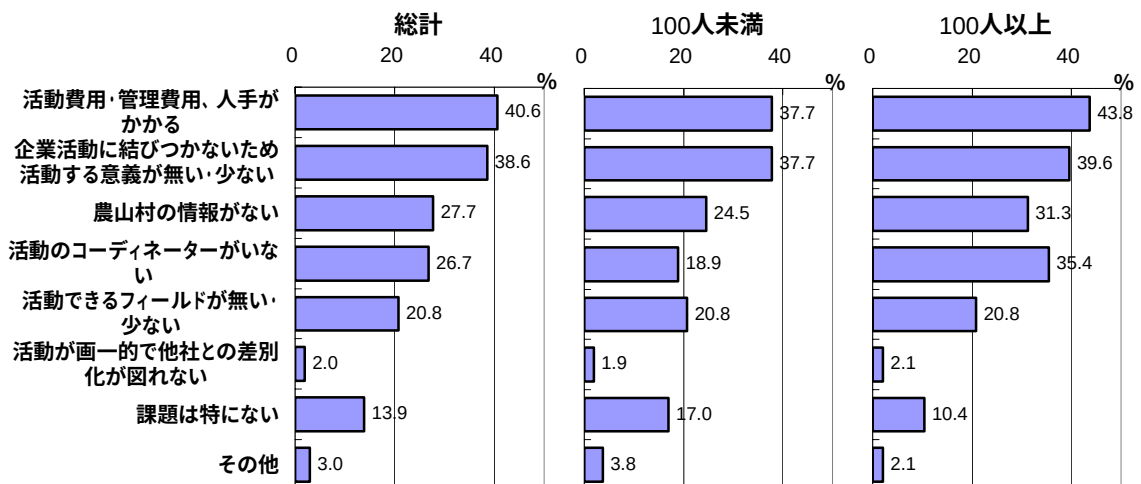
	ぜひ実施したい	条件があれば実施したい	どちらでもない	実施したくない	計
総計 n=101	0 0.0%	23 22.8%	61 60.4%	17 16.8%	101 100.0%
100人未満 n=53	0 0.0%	12 22.6%	32 60.4%	9 17.0%	53 100.0%
100人以上 n=48	0 0.0%	11 22.9%	29 60.4%	8 16.7%	48 100.0%



(エ) 農山村地域において福利厚生メニューを実施する場合の課題（複数回答）

- ・「活動費用・管理費用、人手がかかる」が 40.6%と最も多く、次いで「企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない」が 38.6%となっている。
- ・100 人以上の企業では、上記の他、「活動のコーディネーターがいない」35.4%、「農山村の情報がない」31.3%など、実施する仕組みが整っていない点を指摘する回答も見られる。

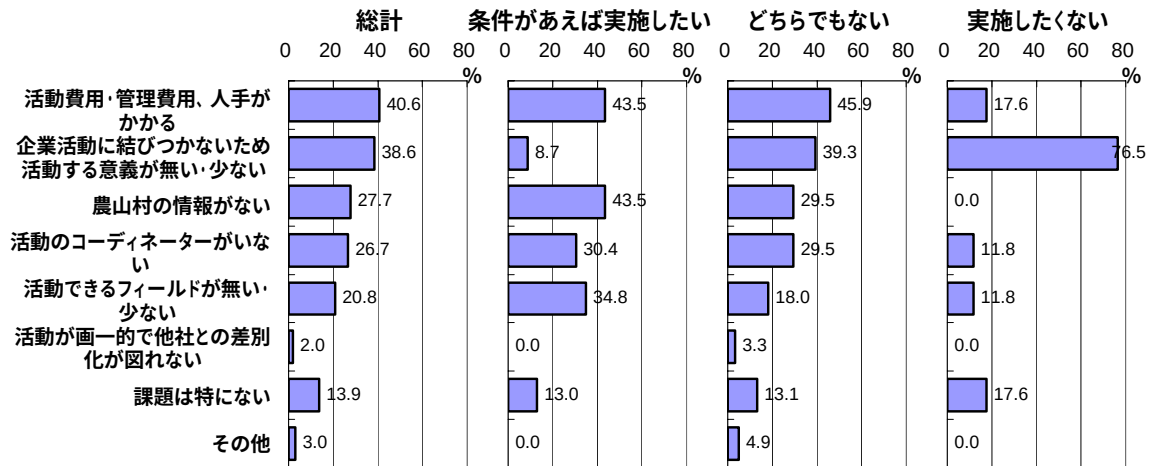
	活動費用・管理費用、人手がかかる	企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない	農山村の情報がない	活動のコーディネーターがいない	活動できるフィールドが無い・少ない	活動が画一的で他社との差別化が図れない	課題は特にない	その他	計
総計 n=101	41 40.6%	39 38.6%	28 27.7%	27 26.7%	21 20.8%	2 2.0%	14 13.9%	3 3.0%	175
100人未満 n=53	20 37.7%	20 37.7%	13 24.5%	10 18.9%	11 20.8%	1 1.9%	9 17.0%	2 3.8%	86
100人以上 n=48	21 43.8%	19 39.6%	15 31.3%	17 35.4%	10 20.8%	1 2.1%	5 10.4%	1 2.1%	89



(「実施意向」(ウ) とのクロス集計)

- ・農山村地域において福利厚生メニューを実施する場合の課題について、前問(ウ)の実施意向についての回答別に集計した結果を以下に示す。
- ・実施について「実施したくない」とした企業では、「企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない」という回答が多いが、「条件があれば実施したい」とした企業では、「活動費用・管理費用、人手がかかる」や「農山村の情報がない」ことを課題として挙げている。

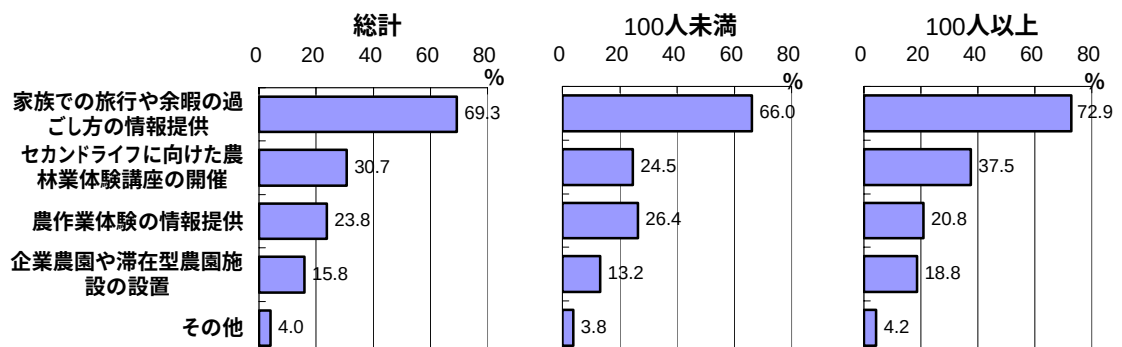
	活動費用・管理費用、人がかかる	企業活動に結びつかないため活動する意義が無い・少ない	農山村の情報がない	活動のコーディネーターがない	活動できるフィールドが無い・少ない	活動が画一的で他社との差別化が図れない	課題は特にならない	その他	計
総計 n=101	41 40.6%	39 38.6%	28 27.7%	27 26.7%	21 20.8%	2 2.0%	14 13.9%	3 3.0%	175
条件があれば実施したい n=23	10 43.5%	2 8.7%	10 43.5%	7 30.4%	8 34.8%	0 0.0%	3 13.0%	0 0.0%	40
どちらでもない n=61	28 45.9%	24 39.3%	18 29.5%	18 29.5%	11 18.0%	2 3.3%	8 13.1%	3 4.9%	112
実施したくない n=17	3 17.6%	13 76.5%	0 0.0%	2 11.8%	2 11.8%	0 0.0%	3 17.6%	0 0.0%	23



(オ) 農山村地域において福利厚生メニューを実施する場合に希望するメニュー
(複数回答)

- ・「家族での旅行や余暇の過ごし方の情報提供」が 69.3%と多数を占めている。

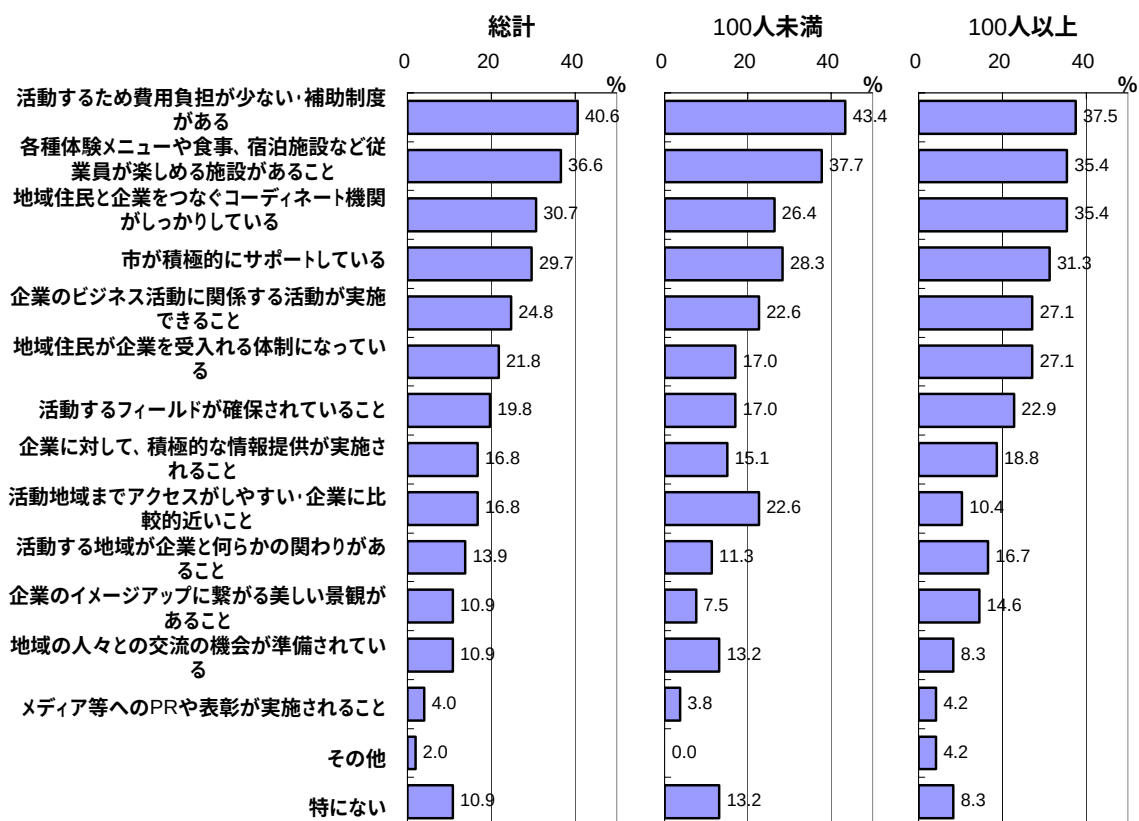
	家族での旅行や余暇の過ごし方の情報提供	セカンドライフに向けた農林業体験講座の開催	農作業体験の情報提供	企業農園や滞在型農園施設の設置	その他	計
総計 n=101	70 69.3%	31 30.7%	24 23.8%	16 15.8%	4 4.0%	145
100人未満 n=53	35 66.0%	13 24.5%	14 26.4%	7 13.2%	2 3.8%	71
100人以上 n=48	35 72.9%	18 37.5%	10 20.8%	9 18.8%	2 4.2%	74



オ. 農山村地域での活動を進めると仮定した時に重視する内容

- ・「費用負担が少ない・補助制度がある」40.6%と費用面を挙げるものが最も多く、次いで内容面の「従業員が楽しめる施設があること」36.6%、さらに「コーディネート機関がしっかりしている」30.7%や「市が積極的にサポートしている」29.7%など推進体制を挙げるものが続いている。

	活動するため費用負担が少ない・補助制度がある	各種体験メニューや食事、宿泊施設など従業員が楽しめる施設があること	地域住民と企業をつなぐコーディネート機関がしっかりしている	市が積極的にサポートしている	企業のビジネス活動に関する活動が実施できること	地域住民が企業を受入れる体制になっている	活動するフィールドが確保されていること	企業に対して、積極的な情報提供が実施されること	活動地域までアクセスがしやすい・企業に比較的近いこと	活動する地域が企業と何らかの関わりがあること	企業のイメージアップに繋がる美しい景観があること	地域の人々との交流の機会が準備されている	メディア等へのPRや表彰が実施されること	その他	特にな	計
総計 n=101	41 40.6%	37 36.6%	31 30.7%	30 29.7%	25 24.8%	22 21.8%	20 19.8%	17 16.8%	17 16.8%	14 13.9%	11 10.9%	11 10.9%	4 4.0%	2 2.0%	11 10.9%	293
100人未満 n=53	23 43.4%	20 37.7%	14 26.4%	15 28.3%	12 22.6%	9 17.0%	9 17.0%	8 15.1%	12 22.6%	6 11.3%	4 7.5%	7 13.2%	2 3.8%	0 0.0%	7 13.2%	148
100人以上 n=48	18 37.5%	17 35.4%	17 35.4%	15 31.3%	13 27.1%	13 27.1%	11 22.9%	9 18.8%	5 10.4%	8 16.7%	7 14.6%	4 8.3%	2 4.2%	2 4.2%	4 8.3%	145



(3)結果まとめ

- 企業としての農山村地域における活動を実施している回答は 8%に止まっている。
また、積極的に関わる意向を持っているところは5%と少ない。

- 今後関心のある活動は、「福利厚生、社員同士の交流」が最も多く、次いで「社会貢献活動」「ボランティア活動」「セカンドライフに向けた生きがい探しの場」の順。

- 社員研修として農山村での活動を実施している企業はない。今後「条件があれば実施したい」と回答した企業は 25.7%、「実施したくない」が 16.8%。
→農山村での社員研修を「実施したくない」と回答した企業の多くが、「企業活動に結びつかないため活動する意義がない・少ない」としている。また、「条件があれば実施したい」とした企業は、「活動費用・管理費用、人手がかかる」「農山村の情報がない」「活動のコーディネーターがいない」ことを課題としている。

- 福利厚生メニューとして農山村での活動を実施している企業はない。今後「条件があれば実施したい」と回答した企業は 22.8%、「実施したくない」が 16.8%。
→農山村での福利厚生メニューを「実施したくない」と回答した企業の多くが、「企業活動に結びつかないため活動する意義がない・少ない」としている。また、「条件があれば実施したい」とした企業は、「活動費用・管理費用、人手がかかる」「農山村の情報がない」「活動できるフィールドがない・少ない」ことを課題としている。

- 農山村地域での活動を進めると仮定した時に重視する内容は、「費用負担が少ない・補助制度がある」と費用面を挙げるものが最も多く、次いで内容面の「従業員が楽しめる施設があること」、さらに「コーディネート機関がしっかりしている」や「市が積極的にサポートしている」など推進体制を挙げるものが続いている。

- このように、全体的に市内の多くの企業の農山村交流についての関心は高くはない。活動のためには、企業活動に何らかの形で結びつくことが前提であり、その上で具体的な活動のための諸条件が整備されていることが求められている。

2. 市内企業の取組事例

(1) 大手自動車部品メーカー

ある大手自動車部品会社では、国内での間伐・緑化活動を通じて、森林資源の保全、水源涵養を図り、環境保全・環境啓発への貢献を推進している。

愛知県内では、矢作川流域で間伐などの森林整備を行っている矢作川水系森林ボランティア協議会の推進する「山里協働間伐モデル林事業」を支援することを表明。

また、三重県が推進する「企業の森林づくり」の支援を三重県、地元市町村とともに宣言した。

さらには企業との森づくりの魁であり先進的な取組みを推進している高知県の「協働の森づくり」を支援することを表明している。この事業は、高知県が2005年度から取り組んでおり、南国市にある企業グループの森で、今後3年間、森林整備や、地域の方々と社員との交流活動を行うこととしている。

(2) 大東工業株式会社

大東工業株式会社では、ISO14000 で規定している「外部コミュニケーション」活動として、周辺地域との関係を重視しており、例えば会社行事（レクリエーション、参拝のお供え、等）などで周辺の農家から農産物を購入するなどを実施。また、レクリエーションでは、市内の農山村部を訪れ、果物狩りなどを行っている。

毎年 10～15 人程度が入社する新人研修は、藤岡地区にある施設で座学中心に行っており、特に農林業体験を行ってはいない。しかし、研修での農林業体験は、チームワークの形成、コミュニケーションを図る上でも、有効と考えられることから、今後導入の可能性を検討する意向がある。作業体験が、基本動作の励行という意味で会社の作業にも役立つ点、会社で教育できないことを、外で行うという意味がある点などから、期待されている。

農山村交流の取組は、会社のイメージアップにつながり、例えば企業名の PR により、社員の採用活動にも有利になると考えられる。費用対効果を見極めながら、取組を検討していきたいとしている。

第4章 社会実験の概要

1. 「第2のふるさと創出」農山村体験ツアーの実施

家族単位での農山村体験促進にむけ、セカンドスクールモデル校事業で訪問した地区を親子で訪れる1日体験ツアーを実施した。

■実施内容

- ・期日：平成18年10月6日（金）
- ・内容：豊田市立大林小学校の3年生～6年生の児童と保護者の希望者が参加し、各コースに分かれて親子で農山村での農林業等を体験した。

行き先	体験内容	参加者数
旭地区	古民家での流しそうめん、五平もち作り	20名（8家族）
足助地区	五平もち作り、いも堀り	21名（7家族）
稲武地区	五平もちとイモ鍋作り、草木染め体験	20名（7家族）
小原地区	豆腐、こんにゃく、田舎のお菓子作り	17名（6家族）
下山地区	ソーセージとスイートポテト作り、いも堀り	42名（15家族）

2. 「企業連携」モデルツアーの実施

企業と連携した農山村体験促進にむけ、企業のOB会組織内での募集ツアーや、人事福利厚生担当者対象の研修モデルツアーを実施した。

(1) 企業のOB会組織内での募集ツアー

- ・期日：平成19年2月13日（火）、14日（水）、16日（金）、22日（木）の各日
- ・内容：自動車製造業のOB会会員を対象に募集し、郷土料理作りやクラフト体験などを含む農山村体験を実施した。

実施日	行き先	体験内容	参加者数
2/13	足助地区	五平もち作り、足助の街並み散策	14名
2/14	稲武地区	うどん作り、わら細工体験	7名
2/16	旭地区	五平もち作り、こんにゃく・豆腐作り体験	13名
2/22	小原地区	山芋・野草探し、こんにゃく・五平もち作り	12名
2/22	下山地区	ソーセージと五平もち作り体験、絵手紙作り	12名

(2) 人事福利厚生担当者対象の研修モデルツアー

- ・期日：平成19年2月20日（火）、24日（土）
- ・内容：市内に事業所を有する企業の人事・福利厚生担当者を対象に募集し、農山村体験を通じた地域の人との関わりや共通体験を持つことによる連帯、環境問題の理解、地域社会への貢献など、研修等のツールとしての検討材料とすべく、モデルツアーを実施した。

行き先	体験内容	参加者数
稲武地区	間伐作業体験、枝打ち作業体験、等	12名（3企業）